銀漢亭日録

伊藤伊那男

3月5日(土)
▼散髪。日用品、店用の買物。午後、5月号用選句など。養毛剤使ってほぼ3か月。頭頂がむずむずするのは効果の予兆か？〈養毛剤やうやく効きて啓蟄へ〉夜、久々、吉祥寺に出て寿司店、焼鳥屋など飲み歩く。一人の時間。

6日(日)
▼5月号の選句全て終了。13時、方南会館にて「春耕同人句会」。

7日(月)
▼春の雪。積るほど。有史さん企画のダンスパーティーで貸切。5時間ほど大音響で盛り上る。

8日(火)
▼娘から「結婚記念日だね」とメール。そう36年前のこと。午後、発行所は4月号校正。店奥、火の会11人。ホトトギスの今井肖子さん久々参加。

9日(水)
▼4月号校正。「俳壇」5月号の「俳人クロニクル」欄の準備。文章は過日、「狩」同人・若井新一さん(角川賞作家)に依頼。快諾いただいている。午後、発行所、「梶の葉句会」。本日、俳人協会年次総会にて、終って、朝妻力、西村睦子さん来店。追って。鈴木節子、しなだしん、山田真砂年、山崎祐子、池内けい吾、柚口満、慶大俳句で育つたという杉原祐之、中本真人氏(「山茶花」)など来店。

10日(木)
▼若井新一さんより銘酒・八海山到来。立花蔵、対馬康子、守屋明俊、村上鞆彦さん来店。発行所では5月号の編集会議。坪井さん安藤建設グループ10人など。終って逍遊と久々飲む。

11日(金)
▼本日15人の予約あり、早めに店に入り仕込。14時26分、激震に恐怖を感じる。電話など通ぜず。店は休みとする。淳子、二平、小川洋、うさぎさんが避難してくる。電車が動かないので酒盛りをして待機。最後句会。23時過、電車動き始めたと。都営線大混雑にて半蔵門線、井の頭線をつないで1時半帰宅。家は皿が何枚か割れた程度。

12日(土)
▼テレビの映像で三陸地方の惨状に驚く。昨年も訪問した気仙沼は火の海。小野寺清人、菊田一平さんの故郷の気仙沼大島も大変な様子。二人の心情いかばかりか。

13日(日)
▼テレビは地震・津波の報道。深刻である。午前中原稿書き。午後、長女・桃子の目黒の家。引越前最後の食事会。杏二家も来て、鰻雑炊、うざくなど。早めに帰宅。

14日(月)
▼原発も危機。大混乱の状況。電車も間引運転にて、酒場の営業は厳しいか？心鎮めるために5月号の句評などに取りかかる。十数年ぶりに納戸から登山用リュックなど取り出す。店開く。何とこんな日に！小川洋、橋本有史、松代展枝、谷口いづみ、坪井研治、谷岡健彦、堀切克洋、阪西敦子氏など。あと、一般客1組。21時閉める。17日の「銀漢句会」は中止として連絡網を廻す。

15日(火)
▼夜中、地震に起きる。13時過店。発行所に武田夫妻、4月号最終処理など淡々となこしている。店は休みとするが、天野小石、有澤志峯、小川洋、阪西敦子、小滝肇、大西真二氏来て酒盛り。21時過帰宅。娘達が子供を東京から避難させたいとのことで、急遽、京都へ行くことになる。桃子が東名高速に乗ったあと、富士宮で地震あり、清水まで不通と。杏の車が迎えに来て協議。こちらは中央道で行くこととし、別々に京都へ向う。

16日(水)
▼途中、仮眠などとり、7時、京都八条口のガストで合流し朝食。9時半、西京区の和田ちゃん(亡妻の友人)の家に。既に彼女の友人、三宅さん所有の3LDKのマンションを我々のために用意してくれていて、暖房具、布団、テーブルその他、全て運び込んでくれる。駐車場も2台分用意。少なくとも今週中はここで暮し、原発の行方を見守ることとする。杏は来月出産予定。大人5人、子供5人、計10人、と犬のバニラ。昼、寿司届けてくれる。少しのビールに酔い、夕方まで寝る。何という幸せ。北澤一伯君より電話あり、避難する時は安曇野の家で受け入れるからとの嬉しい連絡。朝妻力さんより電話あり、明日、解体直前の薬師寺東塔一階の公開を見に来ないかと誘いあり。宮澤と行くこととする。

17日(木)
▼6時起床。西山はうっすらと雪。バニラ散歩。7時20分発、宮澤と奈良へ。9時過、薬師寺。朝妻力さん他5名の奈良勢と落合い、東塔一階の公開を見る。寒い。風花が舞う。唐招提寺へも。落椿美し。昼は「草の戸」という薬膳料理店で、ご馳走になる。酒少々。宮澤の写真が興福寺国宝館案内の立看板になっているというので皆で見に行く。阿修羅を含む八部衆の写真が興福寺入口の数カ所に。国宝館に入り、山田寺仏頭、天燈鬼、龍燈鬼、その他国宝の数々を見て皆と別れる。小野寺清人さんより電話あり、千葉薫さん生存確認できたと。戻って少し寝る。雪。東京は電力不足で停電の恐れもありと。原発には放水車。夜、和田ちゃんの教えてくれた焼肉屋「やるき！」。22時頃寝る。

18日(金)
▼6時起。宮澤と善峯寺で雪景色。松尾大社。11時帰宅。午後、竹の里の湯に行き、くつろぐ。18時、和田ちゃんの家。「森嘉」の豆腐で湯豆腐。うまい！近江牛の牛すじ煮、京漬物、じゃこと胡瓜の酢物。水菜と油揚のさっと炒め、大根の含め煮、里芋煮……。ビール、焼酎は魔王。22時には寝てしまう。

19日(土)
▼9時発。全員で金閣寺～三十三間堂。12時、「わらじや」うぞうすい。快晴。バニラを美容院へ。夜、和田ちゃんの家。うどんすき、大根煮、菜の花の酢味噌、蛸と胡瓜と若布の酢物、こうなごの釘煮など。漬物いろいろ。焼酎は村尾。

20日(日)
▼7時半、宮澤と宇治。三室戸寺、萬福寺、平等院。昼、茶そば。一時戻り、東京へ戻る支度。夜、和田ちゃん、たこ焼きパーティーをしてくれる。22時、京都を発つ。

21日(月)
▼夜中、4時、高井戸の自宅に戻る。手紙、FAXなど整理。そのまま5月号用の執筆一切を終える。東京は思ったより平穏。ただし福島原発は安心するには遠い。

22日(火)
▼昨夜からずっと冷たい雨。計画停電に入っている模様。スーパーマーケットには物があるが、節電で暗い。駅も暗い。先週、3日間休んだせいか、店は盛況。真砂年、卓、淳子、うさぎ、美州、直、赤羽さん、オリックス時代の仲間など。

23日(水)
▼長女(家成城への引越日。店盛況。安否を気遣ってくれる仲間が顔を出してくれる。まほグループ、水内慶太、真砂年、池田、逍遊、秋葉男……。

24日(木)
▼相変らず、原発は不安定。「俳壇」の「俳人クロニクル」の原稿書き上げる。池内けい吾さんより愛媛のデコポン。柴山つぐ子さんより山独活届く。朝妻力さんから食材その他心配なものを遠慮なく言ってくれ、送ると連絡あり。有り難き友。発行所は4月号の発送作業。8名程が作業に集まってくれる。80頁。よい重み！終って武田編集長が元部下3名と店へ。最後、3人共、「銀漢俳句会」へ入会申込書を書く。22時閉店。初子、小石、麒麟さんと餃子屋に寄る。

25日(金)
▼「雲の峰」へのエッセイ「そして京都」書き継ぐ。鹿島建設米沢さん2名。明日、人間ドックにて酒飲まず、食さず。

26日(土)
▼10時、渋谷のPL東京健康管理センターにて人間ドック。頭部MRも。終って15時過、日本橋「鮨の与志喜」の「纏句会」に駆けつける。13名。堀江美州氏が東京勤務を終えて岐阜へ戻るので送別を兼ねてゲストに呼ぶ。料理は、席題の蛤の椀に始まり、握り。酒は田酒。

27日(日)
▼「雲の峰」用エッセイ、「そして京都」10回分位まで書き進める。夕方、桃子の引越先、成城6丁目の家訪問。街路の桜の蕾膨らんでいる。う雑炊、うざく、唐墨、土佐鰹の一本干など。

28日(月)
▼宮城沖に大きな余震。本日の「湯島句会」地震のため中止にしたが、どうしても集まりたいという方々が来店し奥にて句会始まる。8人。二平、うさぎ、河合、池田、近、敦子、しん、谷岡さん。まつまづの盛況。

29日(火)
▼昨日、桜の開花宣言。木蓮も満開。世の雰囲気が少しでも明るくなるとよいが…。客少なし。真砂年、土肥あき子、直、洋、有史さん…。帰路、久々「ヴィノテーク」に寄る。

30日(水)
▼堀江美州さんの送別句会。予想を越えて38人集合で貸切状態。3句出し句会。あと吉田類さん一派来店。

31日(木)
▼「運河」同人評送付。店不入り、23時半、閉めて、阪西敦子、天野小石さんと高円寺の「Ａｎｎ」(麻里伊さんの店)。

4月1日(金)
▼店の月次収支記帳。3月は地震、原発問題で営業16日間数年ぶり。2時過まで。

2日(土)
▼13時半より発行所にて「十六夜句会」にゲストで呼ばれる。春の花の句中心に5句。終って「庄屋」にて親睦会。

3日(日)
▼角川俳句通信講座5人分の添削。日経新聞の守屋君より美術展の招待券数種来る。礼状。17時から、水内慶太主宰「月の匣」一周年記念懇親会。日暮里ラングウッドホテル。「スナック美穂」で二次会。あと久々、浅草で飲み直し。

4日(月)
▼まつまづ繁忙。オリックス時代の部下2人。角川「俳句」合評のあと、西村和子、小川軽舟、対馬康子氏、鈴木編集長来店。発行所にて第一回「勉強会」。禪次座長。終って7人。

5日(火)
▼桜八分咲きか。レジイ久々家の清掃に来てもらう。発行所では湯島句会の製本(2月分)。終って8人。お疲れさん会。帰路、「ヴィノテーク」に寄る。

6日(水)
▼発行所で「きさらぎ句会」眞理子さん、禪次さんがゲスト。てる代さんが新人3人連れてくる。店盛況。この時期に嬉しいです！久々、最終電車に乗る。富士見丘駅の「つけめん大久保」。

7日(木)
▼発行所では5月号最終校正。7名程が詰め、23時過まで。頭が下がる。店は来客少なく……。23時半、大きな余震あり。まだまだ落ち着かず。